

Pick up イベント

てつがくカフェ@せんだい「幸福ってなに？」

2010年10月24日(日)

goban tube café

進行：西村高宏

「あなたにとって幸福とはどのようなもの（状態）ですか？」。

今回の哲学カフェは、こんな問い合わせから議論を始めました。参加の方々のこたえを聞いていてとても興味深かったのは、こちらが「あなたにとっての幸福の状態」を聞いていてもかかわらず、そのこたえの多くが「幸福一般」について語られていたという点です。おそらく、参加の方々は、どこかしら「幸福」というものが「自分さえよければそれでよい」といった〈自己充足的な側面〉からだけでは語り尽くせないものであることを直感的に感じ取っておられたのかもしれません。

確かに〈幸福の条件〉として第一に考えなければならないのは、「自分の特定の欲求が満たされているかどうか」であることは疑い得ない。しかしながら、それが自分の目指す行き方や信条から著しく懸け離れた、いわゆる自らの欲求の充足であるならば、そしてさらには〈社会的な承認〉が一切得られないような状態のものであるならば、どれだけそれが心地のよい状態であったとしてもそれは一時的なものに過ぎず、わたしたちはそれを「幸福」とは呼び得ないのではないか。すなわち、〈幸福の条件〉にはどうも〈他者や社会からの承認〉といった要素が欠かせないのでないか。

もうひとつの議論のスジとして「幸福観」ということばに焦点を絞ったものがありました。幸福をどのようなもの（状態）として考えるかは個々の文化や時代（世代）の違いによって異なるものであって、すべての地域や文化、さらには時代（世代）を越えて妥当する〈普遍的な幸福観〉などといったものは存在しないと考えるべきではないか、といった議論です。もちろん、〈幸福の条件〉を考えていくうえで、このような〈幸福観〉の普遍性に関する吟味も必要でしょう。

仙台で哲学カフェを本格始動させて半年になります。私自身、毎回、参加の方々から新しい〈気づき〉を得ることができるようになり、仙台での対話の場もより一層育っていくような手ごたえを感じています。（報告：西村高宏）



【てつがくカフェ@せんだい】

「創造的なコミュニケーションが生まれる場をつくりだすこと」を目的に、せんだいメディアテーク内に設置された goban tube café にて、毎月 1 回のペースで「てつがくカフェ」を開催しています。参加者層は高校生から高齢者まで幅広く、最近、主婦層を読者層としても雑誌に掲載されたことから、主婦の方の参加も意外と多いです。また、今後は仙台市内のカフェで、書評カフェやシネマてつがくカフェも開催していく予定です。

詳細は、<http://tetsugaku.masa-mune.jp/> をご覧ください。

対話の「外」と対話する

メンバー：中岡成文

中岡成文

対話に関心をもつ人にとっては、カフェに集うことは自然であろう。しかし、実際には対話の「外」があると思う。

土地柄的な「外」がある。浜松のある哲学カフェにお邪魔したことがある。その主催者は、哲学カフェを一種の「ブランド」と捉えていた。カフェフィロはその大本の団体のように見られている。それをどう感じるか。私の郷里の近く、山口県徳山市にもカフェがある。退職して帰郷したらここを訪問したり、もしかすれば活動の拠点にしたりするかもしない。どんな「街」なのか、「場所」なのかと想像する。それは一種の「外」だろう。

心理的または記号論的な「外」がある。身体の障がいの場合、カフェの会場に足を運ぶのがむずかしかったり、話声が直接聴けなかつたりする。それはコミュニケーションの条件である「物理的コンタクト」が欠けているケースだ。他方、「心理的コンタクト」の面で対話がうまくいかない人もいる。特殊なこだわりがあつて、周りから敬遠されやすい人。けれど、少しずつでもこだわりを脱ぎ捨てられるという意味では、対話の「外」は接続可能かもしれない。「うまく話せない」、「口下手だから」と発言しない人もいる。もう少し複雑な事情で、他人と交われない、言葉を交わせない人もいる。このような人は最終的には一対一で、心理的・記号論的コンタクトを模索しながら、話す必要がある。カウンセリングを想うときである。

テーマ的な「外」がある。先日台湾を訪れたとき、Café Philo という店に出会って驚いた。中に入ると一種の政治の季節。若者たちが熱く変革を語っている。同じシネマ・カフェでも大阪とは違う志向を感じさせる。さて、どのように接続していくのだろうか。

【中岡成文】
大阪大学大学院文学研究科教授（臨床哲学）／カフェフィロ正会員。
「イギリス哲学を自分なりに読んでいて、その気難しげな体系のなかに、若者の「対話」の傾向を発見。実際に、医療現場や在日外国人との対話実践も試みる。

哲学カフェ「クジラを食べてもよいのか?」

十月十三日（水）
アートエリアB1

進行・森本誠一

いつもはコーヒーを飲みながら参加者の一人として意見を述べているわたしですが、ひょんなことから哲学カフェの進行役を務めることになりました。テーマは「クジラを食べてもよいのか?」。のべ三十五名の方々が参加してくれました。クジラをめぐっては国内外で議論が白熱している時期だけに、殺伐とした雰囲気になりはしないかと内心不安を抱いていましたが、同時に捕鯨について関心を寄せる者として、どのような意見が出てくるのか胸を彈ませながら本番を迎えました。

冒頭で「そもそもクジラを食べてはいけないという積極的な理由はあるのか」という発問がなされると「クジラを食べることは日本の文化である」といった意見や「人間を除けば何を食べようが個人の勝手である」といった意見などが次々と出され、クジラに関するみなさんの関心の高さが伝わってきました。参加者の多くはクジラを食べたことがあるようでしたが、「なければならないでよい」や「どうしても食べたいというほどのものではない」という意見もありました。

「クジラを食べることは日本の文化である」という意見が予想以上に多かったのには驚かされました。が、なかにはそれを政治的・経済的問題として捉え直すような意見もありました。「生存のための食なのがどうかが重要である」という動機に着目した意見も、裏返すと「鯨油をとるだけのためにクジラを殺すことはない」という意見が隠れており、非常に奥の深い問題であるということを改めて考えさせられました。



京阪電鉄なにわ橋駅構内に設けられたアートエリアB1にて。熱心に議論する様子をみて、通りすがりに飛び込みで参加する方もいる。

生物多様性の観点から、食べる目的であつても捕鯨には反対するという意見が出ると、クジラはそれほど減ってはいないという反論が出たり、さらにそれを否定する意見がでたり、たいへん議論の盛り上がったカフェでした。（報告・森本誠一）

【中之島哲学コレージュ】
十月十三日 哲学カフェ「クジラを食べてもよいのか?」
十一月十日 哲学カフェ「わたしのいのちはわたしのもの?」
十一月二二日 セミナー「人が病み治るはどういうことか?」
渡辺奈津、中岡成文
藤本啓子
十一月二六日 セミナー「生物多様性とビジネス」
「ホメオパシーの生命観」
中尾友一、松川絵里

2010年10月~11月活動一覧

- 10月13日 哲学カフェ「クジラを食べてもよいのか?」 アートエリアB1 森本誠一
- 10月17日 シネマ哲学カフェ『パウ・ブラジル～音楽の樹』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 10月19日 哲学カフェ「許すのはなぜ難しいのか?」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 10月23日 哲学カフェ「役に立つ目的がなければ教育は成り立たないか?」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
- 10月24日 哲学カフェ「オレのことを歌で証明」 とよなか国際交流センター 中岡成文
- 10月24日 哲学カフェ「幸福ってなに?」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 11月 4日 テツドク！：ミシェル・フーコー『性の歴史I 知への意志』 さする庵 松川絵里
- 11月 6日 哲学カフェ「コミュニティと市民活動」 千里文化センターコラボ 本間直樹
- 11月10日 哲学カフェ「わたしのいのちはわたしのもの?」 アートエリアB1 藤本啓子
- 11月14日 シネマ哲学カフェ『ソフィアの夜明け』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 11月14日 哲学カフェ「誕生日について」 カフェサンナミジ 本間直樹
- 11月16日 哲学カフェ「認める」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 11月20日 哲学カフェ「ことばで『傷つく』って?」 とよなか国際交流センター 金和永
- 11月20日 哲学カフェ「自分の人生、自分で決める」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
- 11月21日 哲学カフェ「場の空気ってなに?」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 11月21日 哲学カフェ「ゾンビ：元人間について」 コーヒーショップ JUN 桑原英之
- 11月21日 哲学カフェ「がんばることに価値はるか?」 タローパン 三木陽
- 11月26日 セミナー「生物多様性とビジネス」 アートエリアB1 中尾友一、松川絵里

賛助会員募集中！ カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくださる賛助会員（年会費3,000円）を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶瓦版』（隔月発行）をお送りします。詳しくinfo@cafephilo.jpまで。

CAFÉ PHILO（カフェフィロ）

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒537-0023 大阪市東成区玉津 3丁目8-6ロイヤル丸文II 406号室 たまてばこ内

e-mail : info@cafephilo.jp http://www.cafephilo.jp

哲学喫茶瓦版 2010年12月20日発行

発行人：高橋綾 編集・デザイン：松川絵里

